

ユニセフ・ネパール事務所

子どもの保護プログラム「児童労働と闘う」



©UNICEF/UN0118463/Shrestha

第3次報告書

Grant Number: SC141024

2018年5月

unicef  | for every child

1. 概要

国内委員会	日本ユニセフ協会
支援者	神奈川県ユニセフ協会
支援番号	SC141024
支援分野	子どもの保護
プログラム費用 (US\$)	US\$ 369,072.25
プログラムでの支出(us\$)	US\$ 180,078.80
本部管理費 8%	US\$ 14,406.30
残金(us\$)	US\$ 174,587.15
報告期間	2017年1月1日 - 2017年12月31日
支援期間	2014年12月1日 - 2019年12月31日
報告日	2018年5月

2. プログラムの目的と期待される成果：

ご支援の目的は児童労働などの子どもの劣悪な生活環境を改善するため、経済的搾取や虐待・保護の怠慢ないし拒否から子どもを守ることです。

ご支援はネパールの開発プログラムの子どもの保護分野に寄与しています：

期待される成果1： 2017年までに 国の政策・法案・計画・予算・組織調整・監視（モニタリング）は、子どもや青少年・女性の生存・発展・保護・社会参加の権利を、人道的な場を含むすべての状況において平等を果たすために与えられること。

期待される成果2： 2017年までに、もっとも困難な地域にて、子どもや青少年、女性が人道的な立場を含むすべての状況において生存・発展・保護・社会参加するための質の高いサービスを一貫して与えられること。

期待される成果3： 2017年までに、重点地域において、子ども・青少年・女性・男性そしてすべての人権の義務を負う人たちが社会の変化に参画し、子どもや青少年・女性が人道的な場を含むすべての状況において生存・発展・保護・社会参加の権利を認めるために行動を起こすこと。

ユニセフは 10 の自治体を支援し、以下の 5 つに関連する分野に重点をおいた活動をしています：

1. 児童労働に関する情報管理の仕組み（データ収集、分析、普及など）
2. 児童労働の危険にさらされている子どもとその家族への社会復帰サービスの提供
3. 自治体や他の主な関係者の能力強化と制度強化
4. 行動変容のための社会的動員や広報
5. 市町村や関係機関の調整や監視（モニタリング）

3. 主な成果と関連事項

報告期間中、神奈川県ユニセフ協会からのご支援は14の自治体の児童労働対策に活用されました。ユニセフが支援する14の自治体（以前は15でしたが、再編後14に）すべてに支援が提供されました。これら14の自治体には地方開発省（MoFALD）との協議で2016年に支援が延

長された7の自治体が含まれます。これら7の自治体のうち、5の自治体は5つの子どもの保護の指標（最も過酷な形態の児童労働の指標を含む）を改善するために支援が展開され、より支援を必要とする残り2の自治体では児童労働撲滅プログラムが実施されました。

2017年の自治体再編後、ほとんどの自治体が隣接する市町村と合併、その多くが現在、大都市や準大都市として指定されています。ジャナクプル市、トゥルシプル市、ゴラヒ市が大都市に、ビラトナガル市、ビルガンジ市、バラトプル市、ポカラ市（ポカラとレクナートが合併）が大都市として指定されています。ビルガンジ市、ネパールガンジ市、ジャナクプル市、ラージビラジ市、ビラトナガル市はインドとの国境に近く、国境の両側で子どもが人身売買され、搾取されるリスクが増大しています。自治体再編により、新しい行政組織の正確な国勢調査データがないものの、2014年MICS調査の全国平均では5-17歳の子どもの37.4%が児童労働に従事し、13.8%が最も過酷な形態の児童労働を強いられています。

地方開発省（MoFALD）は2016/17年戦略実施計画（ASIP）に児童労働対策プログラムを入れました。ユニセフと地方開発省（MoFALD）間の緊密な調整で、14の自治体への支援を提供するという追加条項が含まれ、2017年、ユニセフは自治体に児童労働プログラムを支援するパートナー団体CWISH（子どもと女性の社会福祉と人権）と提携しました。

表：神奈川県ユニセフ協会の資金による支援対象の重点地域

1.	カスキー郡 (ポカラとレクナートが合併)	ポカラ市
2.	チトワン郡	バラトプル市
3.		ラトナガル市
4.	パルサ郡	ビルガンジ市
5.	ロアタハット郡	チャンドラプル市
6.	ダヌシャ郡	ジャナクプル市
7.	サプタリ郡	ラージビラジ市

地図：児童労働撲滅プログラムが実施されている支援対象の全ての地域



活動1：子どもの保護と児童労働における情報管理システムの整備

ユニセフの支援で、支援対象の自治体は引き続き児童労働に関する子どもの状況データ収集とアップデートを行っています。

報告期間中、対象の自治体は児童労働を含む子どもの生存・発達・保護・社会参加の進展状況を再調査しました。合計1,317人の働く子どもたち（女子589人、男子728人）が確認され、2017年、785人の働く子どもたち（女子411人、男子374人）のその後の対処計画が策定されました。1,317人のうち、日本が支援している自治体では女子173人、男子209人が確認され、382人すべての子どものためのその後の対処計画が策定されました。



4日間のケーススタディ研修でのグループワークの様子

2016年からプログラムが始まったビルガンジ市、ラージビラジ市は子どもの詳細なデータ収集を続けます。2016年に拡張された他の5の自治体も同様に、5つの子どもの保護に関する現状データ収集を始めました（最も過酷な形態の児童労働を重要な指標を含む）。子どもの保護に関する指標の進捗状況を把握するための現状値の設定は、自治体が『子どもにやさしい都市』を宣言するために重要な前提条件となっています。

活動2：児童労働の危険にさらされている子どもとその家族への社会復帰サービスの提供

支援対象の9の自治体で、最も過酷な形態の児童労働を強いられている子どもたち135人（女子71人、男子64人）が両親のもとに戻ることができました。ご支援により、135人のうち、ビルガンジ市、ラージビラジ市の17人の子どもたち（女子12人、男子5人）が社会に復帰しました。解放された子どもたちは個々のニーズにあった様々なサービス（心理カウンセリング、教育支援、両親と雇用主との仲介など）を受け、社会福祉士によるフォローアップの後、ケアが終了しました。

2017年、都市部のインフォーマル教育プログラム（UOSP）に合計1,438人の子ども（女子821人、男子617人）が入学、1,148人（女子732人、男子416人）が卒業しました。卒業生の合計369人の子ども（195人、男子174人）が公式の学校に復学、148人の子ども（女子72人、男子76人）が卒業せずに復学しました。517人の子ども（女子267人、男子250人）が公式の学校に復学しました。



児童労働が発覚した子どもの家族の追跡とその家族の状況調査

日本の支援では、1,438人の子どものうち1,011人（女子673人、男子338人）がUOSPに入学、839人（女子623人、男子216人）が卒業しました。UOSPを卒業した203人（女子114人、男子89人）と直接公式の学校に復学した子ども14人（女子11人、男子3人）、合計217人の子ども（女子125人、男子92人）が公式の学校に復学しました。



児童労働から解放された子どもの家族が
サポートを受け、雑貨店を開いた

14歳以上の子ども106人（女子75人、男子31人）が職業訓練を受け、71人（女子50人、男子21人）が訓練を修了しました。このうち18人（女子8人、男子10人）が就職、11人の子ども（女子8人、男子3人）が訓練を活かした自営業でした。212の家族が生計と子どもの復学のための支援を受けました。職業訓練を受けた106人の子どものうち14人（女子11人、男子3人）が支援を受けた自治体からでした。14人の子どものうち10人（女子8人、男子2人）が訓練を修了、4人（女子2人、男子2人）がユニセフの支援を受けて、訓練に関連する仕事を見つけました。

2017年、314人の子ども（女子181人、男子133人）が心理カウンセリングを受けました。そのうち81人（女子54人、男子27人）が支援を受けた自治体からでした。

支援を受けた自治体で382人の働く子どもたち（女子173人、男子209人）が新たに確認され、特定されたすべての子どものためにその後の対処計画が策定されました。活動は主に3つの自治体で次のように支援されました。

ビルガンジ市のパートナー団体は104人の働く子どもたち（女子16人、男子88人）を確認、その後の対処計画に沿い、個々のニーズにあった様々なサービスを提供しました。616人の子ども（女子445人、男子171人）がUOSPに入学、533人（女子436人、男子97人）が卒業しました。

パルトプル市のパートナー団体は新たに192人の働く子どもたち（女子115人、男子77人）を確認、特定されたすべての子どもにその後の対処計画が策定されました。合計185人の働く子どもたち（女子72人、男子113人）が都市部のインフォーマル教育プログラム（UOSP）に入学、100人（女子37人、男子67人）が公式の学校に復学しました。

ラージビラジ市は新たに86人の働く子どもたち（女子42人、男子44人）を確認、すべてのケースマネジメント計画を策定しました。210人（女子156人、男子54人）がUOSPに入学、206人（女子154人、男子52人）が卒業しました。UOSPの卒業生103人の子ども（女子77人、男子26人）と中退者12人（女子9人、男子3人）が公式の学校に復学しました。働く子どもたち16人（女子11人、男子5人）が家族のもとに戻りました。



ラージビラジ市で児童労働から救済されたのち、
職業訓練学校で洋服の仕立てを学ぶ女の子

活動3：児童労働と闘う自治体の能力強化と制度強化

ユニセフが支援する自治体の能力強化と技術支援の一環として、パートナー団体のCWISHが自治体に様々な研修を提供しました。報告期間中、15の自治体およびその主要な支援実施NGOの合計32人の職員（女性10人、男性22人）が4日間の子どもの保護と児童労働に関するマスタートレーナー研修（MTOT）を受けました。参加者32人のうち、日本が支援した自治体から14人（女性5人、男性9人）が参加しました。



3日間の児童労働に関する研修を受ける NGO メンバー

研修はさらに自治体の子どもの保護関係者に展開され、様々な自治体の関係者410人（女性242人、男性168人）が3日間のトレーナー研修（TOT）を受けました。410人の参加者のうち、136人（女性54人、男性82人）が日本の支援で研修を受けました。

56人の自治体職員（女性25人、男性31人）、ネパール警察職員、NGO職員がケースマネジメントに関する3日間のトレーナー研修(ToT)を受けました。56人のスタッフのうち26人（女性14人、男性12人）が日本の支援を受けた自治体からでした。

報告期間中、支援を受けるすべての自治体がコミュニティと関係者のための様々な能力強化に取り組みました。子どもクラブ、子どもにやさしい地方自治委員会、地区市民フォーラムなどのメンバーを含む、主要な行政機関と子どもの保護関係者の合計8,400人（女性4,278人、男性4,202人）が子どもの保護と児童労働に関する研修を受けました。8,400人のうち1,923人（女性1,134人、男性789人）が日本の支援を受けたパラトプル市、ビルガンジ市、ビラトナガル市、ラージビラジ市、アンチャンラップ市からでした。

また、これらの自治体から区レベルの子どもにやさしい地方自治委員会の代表者が子どもの権利と児童労働に関する1日オリエンテーションを受けました。

1日オリエンテーションには基本的な子どもの権利、児童労働が及ぼす子どもの健康と生活への影響、子どもへの投資の重要性、利用可能な社会的サービス、違反事例の報告方法・場所の情報が盛り込まれます。

活動4：社会的動員と行動変容のための広報活動

9の自治体で児童労働からの解放を宣言するため、村（TLO¹）、母親グループ、青少年クラブとともに児童労働撲滅の啓発ワークショップが行われました。これらのプログラムはコミュニティで児童労働に立ち向かう重要な人材を育成するため、様々な公式および非公式のコミュニティレベルの関係者の意識向上を目的に行われました。

システム強化と社会的動員の一環として、報告期間中、合計55の区・コミュニティレベルと27の自治体レベルの子どもにやさしい地方自治委員会（CFLG）が形成されました。同様に、2017年、合計230の子どもクラブが結成されました。

¹ TLOs (Tole Lane Organizations)は「市」の下「区」のさらに下の行政区分の「村」にあたります。いくつかの「村」が集まって「区」を形成します。



子どもの権利に関する広報・啓発ポスター

ユニセフが支援するすべての自治体では定期的に情報資料の配布や労働セクターとのアドボカシーミーティングなど、いくつかの意識啓発活動が行われました。6月12日世界児童労働の日（WDACL）にはCWISHによって提供された児童労働に関する技術支援、リーフレットやインフォグラフィックス（情報を提示する視覚的表現）を活用し、すべての自治体で「紛争や災害の中で児童労働から子どもを守る」というテーマで更なる啓発活動を実施しました。

2017年、ラージビラジ市とチャンドラプル市の働く子どもたち、雇用主、教員、子どもクラブのメンバー、社会普及員、自治体職員が5日間の行動変容・広報に関する研修を受けました。この研修で合計57人の参加者（女性27人、男性26人、女子2人、男子2人）が恩恵を受けました。

14の自治体からの合計105,734人（女性49,870人、男性55,864人）に対して、児童労働に対する様々な意識啓発活動を行いました。これには6月12日世界児童労働の日、9月14日ネパールの子どもの日、11月20日世界子どもの日のイベントが含まれます。ポスターやチラシなどの情報、教育、コミュニケーションの資料も作成、配布されました。児童労働に起因する課題と問題の認識を高めるため、社会的動員、ストリートドラマ、戸別訪問キャンペーンも実施されました。

社会的動員と行動変容のための広報活動の結果、多くの自治体が村(TLO)に児童労働の解放を宣言させました。現在46の村(TLO)が児童労働の解放を宣言しました。



児童労働防止の啓発ストリートパフォーマンスの様子

活動5：モニタリング、司法的サポート

報告期間中、14すべての自治体が地区子ども福祉委員会（DCWB）のメンバー、関連する政府関係者、NGOなど、地区レベルの子どもの保護関係者とプログラムをふり返りました。ほとんどの自治体で、2020年末までに『子どもにやさしい都市』を宣言することに重点を置いた総合的な行動計画を準備中です。

さらに、CWISHの技術支援の一環として、対象の14市の上席職員、地方開発省、ユニセフ、NGOの間で児童労働に関するミーティングが実施され、自治体と児童労働および子どもに関する関係者間で同様のミーティングも行われました。各自治体の子どもの保護も14の自治体におけるユニセフの支援する児童労働プログラムの実施を促進しました。



地方開発省、ユニセフ、NGOによる3者間会合の様子



CWISHは能力強化の研修の他、対象の14市すべてで児童労働防止のプログラムの実施計画・ふり返りのための技術支援を行いました。地方開発省、ユニセフ、NGOの3者間で3回のふり返りミーティングが実施され、児童労働プログラムの進捗状況と課題を議論しました。これらは、対象地域の児童労働の課題に対する組織的な対応を確実にしました。2017年、6の自治体で地方開発省、ユニセフ、NGOによる児童労働防止のプログラムのモニタリングが実施されました。

4.使われた金額

重点分野・活動内容	支出(US\$)					合計
	2015	2016	2017	2018	2019	
1. 子どもの保護と児童労働における情報管理システムの整備	33,888.23	146,190.57				180,078.80
2. 児童労働の危険にさらされている子どもとその家族への社会復帰サービスの提供						
3. 児童労働と闘う自治体の能力強化と制度強化						
4. 社会的動員と行動変容のための広報活動						
5. モニタリング、司法的サポート						
小計	33,888.23	146,190.57				180,078.80
ユニセフ本部管理費（8%）						14,406.30
合計						194,485.10

5. 課題

2017年、大きな課題はありませんでしたが、2017年初旬に実施された連邦政府の再編、4月と6月の地方選挙、11月と12月の連邦選挙などの影響によって活動に遅れが生じました。これらの体制の変更と移行によって、ユニセフが実施する児童労働プログラムがすべての支援対象地域で遅れが生じました。

6. 今後の計画

下記の事項は2018年の支援計画における児童労働と子どもの保護に関する重点課題です：

- 自治体の能力強化(より良い計画・実施・自治体のもつ財源のモニタリング)の継続
- ネパール政府による児童労働撲滅の戦略に沿った新しい行動計画の策定への支援
- パートナーNGOと自治体が児童労働のデータ収集・編集・分析を改善するための情報管理システムの支援

7. 謝辞

ユニセフは、ネパールの子どもの女性に対する支援を継続している神奈川県ユニセフ協会に対して感謝申し上げます。

8. ストーリー： 子どもたちのために貧困のない生活を夢見る母(クマリさん)



(ネパール西部ポカラ地区) 唯一の生活空間で娘のアシュミタちゃん(14)が宿題をする間、ガスコンロを掃除するクマリ・シュレスタさん(45)

居住空間の中でも最小の、せいぜい100平方フィート(約30m²)のコンクリートブロックの部屋にベッド、テーブルが3つ、小型テレビ、数々のキッチン用品と細々しい物が詰まった家、これが45歳のクマリ・シュレスタさんと3人の子どもたちの家です。

クマリさんの夫は2番目の妻と暮らし、もはや家族の日常生活に関与していません。まもなく20歳と8歳の2人の息子と14歳の娘の責任は全てクマリさんの肩にのし掛かります。

くと娘のアシュミタちゃんも 数年前まで彼女と一緒に働いていました。

しかし、ユニセフの児童労働撲滅プログラムの一環として、地域の非政府組織Team Organizing Local Institution (TOLI)の支援の下、家族の状況が改善されました。クマリさんはNPR15,000(約US \$ 150)を受け取り、砂山に投資しました。これにより、彼女は自分の小さな区画を採掘し、毎月NPR 2,200(US \$ 22)を得ることができます。

アティットくんは職業訓練の支援を受け、運転を習いました。しばらくの間、TOLIが支援しているクラスにも行きました。クラスは学校生活が困難な生徒を支援するために運営されています。



(ネパール西部ポカラ地区) 唯一の生活空間で長男のアティットくん(20)と座り、笑顔のクマリさん(45)

運転手の仕事でアティットくんは数日間家を離れますが、今日は家に帰り、嬉しそうです。彼はまた、兄弟たちが学校に行くことを喜んでいますが。アシュミタちゃんと弟のアヴィシエクくんは朝のクラスに通います。

今のところ、クマリさんにとってはこれで十分です。いつか生涯経験した貧困のサイクルを破ることができるよう、子どもたちに大きな期待を持っています。



(ネパール西部ポカラ地区) セティ・ガンダーキ川から砂を抽出する人々

しかし12年生までは修了せず、運転手として働き始めました。"母を助けなければならなかった"と、家族が所有する唯一のベッドに母親と座っていたアティットくんは言いました。



(ネパール西部ポカラ地区) セティ・ガンダーキ川のほとりの砂山の前に立つ、左からアヴィシエクくん(8)、クマリさん(45)、アシュミタちゃん(14)